

第4回 2019年度埼玉県公立入試 出題傾向分析

■2019年の埼玉県公立入試の出題分析

教科	今年の入試の特徴	難易度(昨年との比較)	その他、注目点
国語	大問2で「新聞の投書＋会話文」を読み取る問題を新設も、設問は書き抜きと記号のみで易しい。説明文の記述量も増え、総字数も増加した。そのため、 時間の配慮も必要に 。	表現の問題が易しかったこともあり、平均点が上がった。	表現の問題増えたことで読解量が 増加 。時間配分への注意がより重要に。 古典は内容把握に重点を置かれる 可能性があるため、記述対策にも力を入れておく必要あり。
数学 (学力検査)	出題内容がほぼ固定化されている大問1・2の配点は73点と年々増加。前半と後半の難易度差は大きい。	特に大きな変化なし。	大問1・2は一部を除き、ほぼ教科書レベル。 図形がらみの問題が占める割合が高く、対策は必須 。昨年出題された「規則性」は今後も要注意。
数学 (学校選択)	共通問題の配点は56点と年々増加。記述問題は4問あったが、定理を説明する記述の出題はなし。	左記の理由もあり、 平均点が大幅に上がった 。	超難問の出題はないが、全体的に手間が多く、手間のかかる問題が並ぶ。 正確性と処理力が問われる 入試。記述対策は必須。
英語 (学力検査)	リスニングの設問が英語表記となり、空所補充も出題。 記述量は全体的に増加 。	記述量増加の影響もあり、平均点は下がった。	大問4は4ブロック構成で固定化される可能性大。英作文は「英語を学ぶ最適な方法」で難易度が上がった。
英語 (学校選択)	問題構成は昨年と同様。英問英答は1問増加。英作文は「情報リテラシーを小学校で学ぶべきか」	出題形式に慣れたこともあってか平均点は上がり、60点を超えた。	今年の大問3は「サンゴ礁の減少と移植の取り組み」で、 時事的な内容を含む科学系の英文が定番 。語順整序や英問英答も難度が高い。 ※ 今年の英文の内容から、今後狙われるのは、国連発表の「SDGs」(持続可能な開発目標)
理科	昨年出題のなかった「 考え方を書く 」記述問題が2題出題。4分野すべてで知識の正確な理解を問う記述問題が出題。	左記の理由もあり、全体的に難化。 平均点は大きく下がった 。	「論理の筋道が通っているか」が採点基準に。 用語の丸暗記より「なぜ？」が重視される 入試に舵がきられつつある。計算も10問と多いが、年による変動が大きい。
社会	用語の総解答数は12個と多く、 難度はやや高め 。 記述問題の中でカギとなる用語 を書かせるものも出題。	全体的に特に大きな変化はなし。	「すべて選ぶ問題」は3問。「正しい組み合わせを選ぶ問題」も多く、 流れやしくみを正確に理解 していないと正解にならない問題が多い。

